

PRsj

PUBLIC RELATIONS
SOCIETY OF JAPAN

NEWS

2021年1月号

NO. 325

TOPICS

「本領発揮の年に！」

(公社)日本パブリックリレーションズ協会 理事長 畔柳 一典

MESSAGE P4

「PR アワードグランプリ 2020」受賞者によるプレゼンテーションをオンライン配信

ATTENTION P5

PRプランナー資格認定制度／検定試験 第29回1次試験を1月12日から受付中

ATTENTION P10

「広報・PRスキルアップ実践講座」2講座を開講

ATTENTION P11

PRプランナー1次試験対策講座を開講

ATTENTION P12

公益社団法人日本パブリックリレーションズ協会

〒106-0032 東京都港区六本木6丁目2番31号 六本木ヒルズノースタワー

5F 電話(03)5413-6760 ファックス(03)5413-2147

URL <https://www.prsj.or.jp/>

関西支部 〒530-0003 大阪市北区堂島2-1-27 桜橋千代田ビル3F

電話(06)6344-3002 ファックス(06)6344-3005

発行人:畔柳 一典

1月号目次

1月～2月のスケジュール		— 2
MESSAGE(メッセージ)	「本領発揮の年に！」	— 4
REPORT(開催報告)	「PRアワードグランプリ2020」受賞者によるプレゼンテーションをオンライン配信	— 5
ATTENTION(お知らせ)	PRプランナー資格認定制度／検定試験再開！1次試験申込1月12日から受付開始	— 10
”	「広報・PRスキルアップ実践講座」2講座を開講	— 11
”	PRプランナー1次試験対策講座」を開講	— 12
REPORT(講演レポート)	第210回定例研究会(正会員・個人会員限定)	— 13
協会掲載記事	PRSJ in Media	— 14

1月～2月スケジュール

【オンライン】第21回企業部会フォーラム	日 時	: 1月13日(水)16:00～17:00
	テーマ	: 東日本大震災から10年、当時の広報対応を振り返りながらメディアと広報の関係について考える
	講師	: NHK 解説委員 水野 倫之氏
【オンライン】PRSJ新春フォーラム	日 時	: 1月20日(水) 16:00～17:15
【オンライン】広報・PR スキルアップ実践講座 リサーチ& PRプランニング	日 時	: 1月中旬開講予定
	テーマ	: 戦略的広報活動のための「調査」の重要性と実施ポイント 株式会社オズマピーアール コミュニケーションデザイナー／クリエイティブディレクター 登坂泰斗氏、コミュニケーションプランナー 猿田一揮氏
【オンライン】広報・PR スキルアップ実践講座 企業文化醸成	日 時	: 1月下旬開講予定
	テーマ	: 企業文化醸成とパブリックリレーションズ
	講師	: 株式会社資生堂 社会価値創造本部アート&ヘリテージ室長 上岡典彦氏
【オンライン】広報・PR スキルアップ実践講座 危機対応	日 時	2月開講予定
【オンライン】PRアワード受賞事例公開セミナー	日 時	2月開催予定
【オンライン】PRプランナー1次試験対策講座	日 時	1月13日(水)～3月19日(金)
	講師	株式会社井之上パブリックリレーションズ 執行役員 コンサルティング2部 部長 横田和明氏、株式会社エイレックス 危機管理広報コンサルティング部長 畑山 純 氏

1月～2月の理事会・委員会・ 部会スケジュール

定例理事会	(1月度)	日 時	: 1月 14日 (木)	16:00～17:30
		会 場	: オンライン開催	
	(2月度)	日 時	: 2月 10日 (水)	16:00～17:30
		会 場	: オンライン開催	
教育委員会	(1月度)	日 時	: 1月 13日 (水)	13:30～15:00
		会 場	: オンライン開催	
資格委員会	(1月度)	日 時	: 1月 28日 (木)	16:30～18:00
			: オンライン開催	
国際・交流委員会	(1月度)	日 時	: 未定	
広報委員会	(1月度)	日 時	: 1月 27日 (水)	14:00～15:30
			: オンライン開催	
顕彰委員会	(1月度)	日 時	: 1月 25日 (月)	14:00～15:30
			: オンライン開催	
企業部会幹事会	(1月度)	日 時	: 1月 6日 (水)	17:00～18:30
			: オンライン開催	
	(2月度)	日 時	: 2月 3日 (水)	16:00～17:30
			: オンライン開催	
PR業部会幹事会	(1月度)	日 時	: 1月 19日 (火)	16:00～17:30
			: オンライン開催	

本領発揮の年に！

公益社団法人 日本パブリックリレーションズ協会

理事長 畔柳 一典

あけましておめでとうございます。Covid-19の猛威が収まらない昨今ではありますが、会員の皆様におかれましては、健やかな新年をお迎えのことと思います。

昨年の春以来、私たちの生活はCovid-19がもたらした様々な克服すべき課題への対応に翻弄されました。それは今この時も続いています。皆さまがお感じになっているように、徐々にではありますが我々はその対処法を身に着けつつあります。そんな中で浮き彫りになった大きな課題として、コミュニケーションの重要性とその裏腹での脆弱性が露見したと私は考えます。それは日本に限らず世界中で散見され、社会の分断や不寛容を助長させました。このことは、取りも直さず私たち“コミュニケーション”に係わる、特にパブリックリレーションズに携わる我々に突き付けられた大きな課題に他ならないと私は思います。

昨年の11月に「PRSJ40周年記念フォーラム」を開催し、その中で「2020年PRSJ宣言」を発表しました。そこには、「パブリックリレーションズが培ってきた相互理解による合意形成力や信頼関係の構築力が、創造的な対話づくりの力となり、人々の中に共感を生み出し、ソーシャルインベーションに貢献する」という意味を込めました。PRSJは、私たちの社会にCovid-19が課した様々な試練を乗り越えて、新たな希望に満ちた社会を築き上げる一助を担えるよう、パブリックリレーションズが持つ力を最大限に発揮して、会員の皆さまとともに活動していきたいと思えます。

さて、今年の当協会の活動ですが、既に発表されましたが、Covid-19で中止を余儀なくされていた「PRプランナー資格認定試験」が試験方法を変えて実施できるようになりました。詳細は協会のウェブサイトをご覧ください。

また、昨年から今年に延期になりました米国のPRovoke Mediaとの共催イベントも現在実施に向け検討に入っております。概要が決まり次第お知らせいたします。

最後に、本年度（2020年度）は協会の中期経営計画の最終年になります。新たな中期経営計画を2021年度の総会（本年6月予定）でご報告させていただく予定でおります。協会の今後の在り方、活動方針のグランドデザインを皆さまにお示すべく、現在計画を立案中です。協会の経営や運営に関するご意見を事務局までお寄せいただければ幸いです。

PRSJは、パブリックリレーションズの啓発とプレゼンスの向上を図るべく、今年も活動してまいります。困難な時を乗り越えるために、例年にも増して、皆さまのご支援とご協力をお願い申し上げます。

「PRアワードグランプリ 2020」 受賞者によるプレゼンテーションをオンラインで配信

今年の「PRアワードグランプリ2020」は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、受賞エントリーのご紹介ならびにシルバー以上の受賞者によるプレゼンテーションを、期間限定(2020年12月18日～27日まで)でオンライン配信し、多くの方にご視聴いただきました。



畔柳理事長のご挨拶、井口審査委員長からの総評につづいて、ブロンズと奨励賞のエントリーのご紹介、シルバー以上受賞全9エントリーの方々によるプレゼンテーションを実施していただきました。

今年度のPRアワードグランプリでは「“上手な換気の方法”を伝えたい!『空気で答えを出す会社』の底力」(エントリー会社:ダイキン工業(株)、事業主体:ダイキン工業(株))と「『新型コロナウイルスに関する危機管理広報初動マニュアル』無償提供でコロナ禍での本質的PR発想を最短最速で日本中に提供」(エントリー会社:(株)井之上パブリックリレーションズ、事業主体:(株)井之上パブリックリレーションズ)の2つのエントリーをグランプリとして選出いたしました。PRアワードグランプリで2つのエントリーがグランプリを受賞する

のは2014年以来、2回目です。

なお、「ゴールド」は該当なし、「シルバー」「ブロンズ」に各7エントリーが選出されています。

また奨励賞として、「ニューノーマル時代の社内コミュニケーション 社員向けポッドキャスト」(エントリー会社:アメリカン・エクスプレス・インターナショナル, Inc.、事業主体:アメリカン・エクスプレス・インターナショナル, Inc.)が選出されております。

「PRアワードグランプリ 2020」の受賞エントリーの内容は、2021年2月に開催予定の「PRアワード受賞事例公開セミナー」や5月に発刊予定の「PR Yearbook 2021」、協会のアワードウェブなどで紹介していく予定です。



<井口 理・審査員長の講評コメント>



コロナ禍で国内外のアワード行事が軒並み中止や延期となる状況ではありましたが、ネガティブな環境においてもPRはその状況をポジティブに転換していくチカラがあるはず、その思いからアワードの実施を提言しました。逆風の中で、それをしっかりと受け止め、進むべき道を見つけ出した取り組みを各所に紹介・共有できるのであれば、それこそがアワードが貢献し得る最大のメリットとなると考えました。とはいえ、当初はそのエントリー数もそこまで期待できないと予想していましたが、蓋を開ければ例年に違わず、またクオリティの高いエントリーが揃ったことに驚嘆し、また安堵しました。

今年はコロナ禍という最大の有事に対してスピーディに取り組んだ案件のみならず、以前から中長期で継続されてきた活動もこのタイミングでより象徴的にその成果が表出したものもありました。これまで気づかなかった様々な課題が顕在化し、それをしっかりと受け止め対応するなど、負の状況下を「機会」として捉え、新たな活動を起こした企業も数多くあったようです。コロナ禍は、ある意味で我々により積極的に、前向きな姿勢で課題に向き合う心構えをもたらしたのかも知れません。

今年のPRアワードグランプリは、異例のダブル・グランプリ受賞となりました。最終審査では突出した2エントリーについて多くの時間を割き、その評価軸において議論を重ねました。そしてその議論は本アワードの目的とはなんぞやという本質的な部分にまで至りました。なぜなら、ダブル・グランプリの一方がPR会社自体の活動であったためです。本アワードはこれまで事業会社の目的や課題に対して、PR会社やPRパーソンがどのように取り組み、また成果を上げたのかを議論してきました。しかし、今回の議論を経てPR会社は裏方やサポーターという立場のみならず、PR会社自体も事業会社として立ち居振る舞うべき存在でもあるのだという当たり前の事実を再認識しました。その意味で、事業会社の活動と同様に評価をして然るべきと考えました。併せて、このコロナ禍でPR会社そのものが果たすべき社会的存在意義やその価値について改めて考え直し、業界内で共有できる良い機会と判断し受賞を決めました。これをタイミングに日本のPR業界のポジションが、先行する欧米同様に加速度的に進化していくことを願って止みません。

またもう一方のグランプリであるダイキン工業様のエントリーも、PR会社と共働しつつも企業内の広報・PR関係者の中長期の意志と取り組みを背景に達成された真性のPR活動と言えるでしょう。自社の打ち出し方をしっかりと定め、そのスローガンの下、コロナ禍でバタつきがちなタイミングに初速鋭くアプローチを重ね、その社会的存在意義を伝え切った好事例と思います。そのブレない意志があるからこそ、このコロナ禍でもスピーディな意志決定と活動が実現でき、競合他社との鮮明な差別化が図れています。そしてこの取り組みはコーポレート・コミュニケーションが主体ではあるものの、それはまた商品の販売実績といったマーケティング的な成果にまで波及しています。まさに企業評価を高めつつ、それがマーケティングにも寄与するというこれからの理想的なコミュニケーションが実践されたことは素晴らしいと思います。

これら二つの事例から今後の広報・PRの未来を見出しつつ、事業会社、PR会社ともにそれぞれがその社会的役割を果たし、また連携するステージをさらに発展させていくきっかけとできれば幸いです。本アワード審査にて、メディアやアカデミック、事業会社、そしてPR会社といった出自の異なる各審査員の方々と、それぞれの視点を交差させながら濃密な議論ができたことは自身の学びでもありました。改めて御礼申し上げます。

<受賞者コメント>

グランプリ：受賞エントリー（2エントリー、エントリー登録順）

- 作品名：“上手な換気の方法”を伝えたい！「空気で答えを出す会社」の底力
- エントリー会社：ダイキン工業(株)
- コメント：めざすは「空気で答えを出す会社」。コロナ禍に部門横断で取り組む「上手な換気の方法」のPR活動が認められ、感無量です。



- 作品名：「新型コロナウイルスに関する危機管理広報初動マニュアル」
無償提供でコロナ禍での本質的PR発想を最短最速で日本中に提供
- エントリー会社：(株)井之上パブリックリレーションズ
- コメント：大変光栄です。この受賞を通して、危機管理の根幹にある本質的なPRの考え方をさらに広げていければと思います



ゴールド：受賞エントリー（0エントリー）
該当なし

シルバー：受賞エントリー（7エントリー、エントリー登録順）

■作品名：#家でも防災訓練してますか？もしものときのサランラップ®活用術

■エントリー会社：(株)電通

■コメント：災害大国の日本。皆様と一緒に本活動を広げていきたいと考えております。ぜひ一緒にさせてください。

■作品名：冷凍餃子#手間抜き論争

■エントリー会社：(株)本田事務所／(株)マテリアル

■コメント：この度は、素晴らしい賞を賜り、感謝しております。これからも、前向きに冷凍食品をご活用いただける取り組みを行っていききたいと思います。

■作品名：コロナ禍にさらされた“日本の伝統文化産業”を救え。

伝統文化の担い手と顧客を繋ぐ「にほんもの/NIHONMONO」プロジェクト

■エントリー会社：(株)サニーサイドアップ

■コメント：伝統文化産業の情報発信には変革の余地があるはず、今後もPRで産業の発展をサポートできればと考えています。

■作品名：分身ロボットカフェ DAWN ver. β

■エントリー会社：(株)ADKクリエイティブ・ワン／(株)サニーサイドアップ

■コメント：名誉ある賞を有難うございます。オリイ研究所の皆様と共に「寝たきりになっても働ける社会」に向けて引き続きチャレンジしていきたいです。

■作品名：ユニ・チャーム ソフィ #NoBagForMe プロジェクト

■エントリー会社：(株)博報堂

■コメント：表彰ありがとうございます。社会が少しでも良い方向に進んでいくことを願って、活動を続けてまいります。

■作品名：交通事故から子供を守れ 肩にかけるおまわりさん まもってトート

■エントリー会社：(株)博報堂

■コメント：プロジェクトの挑戦はまだまだ続いていきます。バッグを通じて「魔の7歳」という事実を多くの方々に知ってもらい、事故のない社会づくりに貢献していきたいと思ひます。

■作品名：乾癬(かんせん)の疾患啓発活動「FACT FASHION ～真実を着る、誤解を脱ぐ。～」

■エントリー会社：(株)オズマピーアール

■コメント：受賞を励みに、これからも皮膚疾患に悩む患者さんがファッションを楽しめる社会創りを進めてまいります。



ブロンズ：受賞エントリー（7エントリー、エントリー登録順）

- 作品名：緊急開催！チンアナゴ顔見せ祭り！
- エントリー会社：(株)電通
- コメント：飼育スタッフの方々の「どんな時もいきものと向き合い続ける」姿勢が受賞に繋がりました。ありがとうございました。

- 作品名：緊急事態宣言下、明智光秀と市役所からの「謀反のお知らせ」
- エントリー会社：京都府福知山市
- コメント：コロナ禍での地方の挑戦に、県や国を越え3万の援軍があり、此度の賞までも……予想外の展開に驚き、感謝しています。

- 作品名：休校・休園にともなう子供たちのための無償サポートプログラム
- エントリー会社：(株)読売広告社
- コメント：銅賞をいただき、ありがとうございます。
親子が安心して過ごすためのサポートを、これからも続けてまいります。

- 作品名：社会課題解決と消費者ニーズに対応する、新しいお歳暮のカタチ「ポ歳暮」
- エントリー会社：(株)パブリックグッド
- コメント：ご選出いただき嬉しいです。今後も企業の課題解決を図りながら、ソーシャルグッドを体現するPRに邁進します。

- 作品名：「私たち」を増やす「仲間づくり」で挑み続ける医療課題解決
—PA・PR、両利きのイノベーション—
- エントリー会社：Ubie(株)
- コメント：この受賞が他のスタートアップにとってもヒントとなれば幸いです。今後も仲間づくりに邁進してまいります。

- 作品名：Chief Future Officer
- エントリー会社：(株)電通
- コメント：言うだけでなく行動に移す。未来のために大きな決断をされたユウグレナさんが、本当に素晴らしいと感じております。

- 作品名：日本の経理をもっと自由にプロジェクト
- エントリー会社：オフサイド(株)
- コメント：PRは様々なステイクホルダーの共感と行動を促し、社会を前向きに動かすことができる。と感じた企画でした。

奨励賞：受賞エントリー（1エントリー）

- 作品名：ニューノーマル時代の社内コミュニケーション 社員向けポッドキャスト
- エントリー会社：アメリカン・エクスプレス・インターナショナル, Inc.
- コメント：「社員の安心・安全を確保する」これが2020年の広報戦略の大命題でした。透明性を持った社内コミュニケーションを意識し今年も励んでまいります。

PRプランナー資格認定制度／検定試験

第29回1次試験を1月12日から受付中

—試験期間は、2月27日(土)～3月14日(日)まで—

資格委員会

昨夏の第27回、第28回の1次試験中止では、試験に向けて準備されていた皆様にご迷惑をおかけしましたことを、改めて深くお詫び申し上げます。

第29回1次試験のお申込み受付を1月12日から開始いたしました。

ぜひ受験をご検討いただければ幸いです。

- 全国280カ所のテストセンターに設置されたPCを使って受験していただきます。
- 16日間の試験期間で、ご都合のよい日時・会場を選択できます。
- 試験範囲（公式テキスト）、問題数、受験料などの変更はありません。
- 受験料のお支払いはクレジットカード払い、コンビニ払い、Pay-easy（ネットバンキング）からお選びください。（手数料は無料です）
- 一般の方は先着順の定員制（300名）となりますが、第27回・28回にお申込みいただいた方は、今回定員の制限なくお申込み可能です。ご希望の日時・会場が先約で埋まってしまう場合もありますので、お早めにお申込みください。

【1次試験 お申込みから合否通知までの流れ】



【PRプランナー資格認定制度／検定制度 第29回1次試験 実施概要】

試験期間	2021年2月27日(土)～3月14日(日)
仮申込み期間	2021年1月12日(火)～2月12日(金) (本申込に必要な受験コードを取得)
本申込み期間	2021年1月12日(火)～2月19日(金) (受験日時・会場選択、受験料のお支払い)
合否発表	2021年3月29日(月)
試験出題数／試験時間	50問／80分
合格基準	全出題数に対して正答率70%以上で合格
公式テキスト	広報・PR概説(2019～2020年度版) 広報・PR過去問題集(2019年度版)

試験スケジュールにつきましては、変更する可能性もございますので、下記のPRプランナー資格制度Webサイトでご確認くださいませう、お願い申し上げます。

PRプランナー資格制度Webサイト：<https://pr-shikaku.prsj.or.jp/>



広報・PR実務講座 2020

「広報・PRスキルアップ実践講座」2講座を開講 ～「リサーチ&PRプランニング」と「企業文化醸成」～

教育委員会

協会では、「広報・PRスキルアップ実践講座」第4回、第5回として、「リサーチ&PRプランニング」、「企業文化醸成」をテーマとする2講座を1月中旬から順次オンライン開講します。

■第4回「リサーチ&PRプランニング」講座

企業提携や新規事情の立ち上げをはじめとして、広報・PR部門はさまざまなコミュニケーション課題への取組みが求められます。予算や人員など限られた資源を効率的に投入し、活動を通じて成果を上げるには、課題の解決をめざす戦略的な広報活動計画の作成が不可欠であり、その作成において担当者は戦略や施策の策定の前提となる「調査」の重要性を理解するとともに、的確な方法と適用について十分に習得しておかねばなりません。

本講座では、広報・PRにおける戦略や計画の立案業務に精通している株式会社オズマピーアールの登坂泰斗氏、猿田一揮氏をお招きし、「戦略的広報活動のための『調査』の重要性と実施ポイント」をテーマにご講義いただきます。講義では広報計画の全体構成をはじめとして、その立案の前提となる現状分析、課題ヒントの発見の重要性、調査の種類や方法などについてお話をうかがいます。またあわせて広報戦略、活動計画の策定に活用できる手法やツールについて、事例を交えながら具体的にご解説いただきます。

■第5回「企業文化醸成」講座

グローバル化を背景に競争環境が厳しさを増す現代世界。そのなかでレピュテーションも高く卓越した業績をあげる多くの企業には、ひとつの共通点がみられます。それは、その企業特有の優れた企業文化が醸成されていることです。

優れた企業文化は歴史や伝統のみで自然に醸成されることはなく、そこには企業文化の核となる理念やビジョン、規範を全社的に浸透させるインターナル・コミュニケーションの粘り強い取組みが不可欠です。それゆえ広報・PR部門は、創業者や経営者が掲げる企業理念やビジョン、会社で働くすべての人々が備えるべき価値観や規範を的確に把握し、その全社への浸透を実現する取組みの戦略的な推進が重要な役割であることを忘れてはなりません。

本講座では、優れた企業文化を有する企業として評価の高い株式会社資生堂の上岡典彦氏をお招きし、「企業文化醸成とパブリックリレーションズ」をテーマとしてご講義いただきます。同社の広報部門で長年の経験を有する同氏は、現在、社会価値創造本部アート&ヘリテージ室長として、創業の理念を核とした企業文化のインヘリット（継承）活動を推進されておられます。

講義では、資生堂における企業文化をご紹介いただくとともに、その醸成を目的としたインターナル・コミュニケーション活動の取組みなどについて、ご経験に基づく具体的なご解説をいただきます。

講座の詳細、受講申込については、本講座の協会 Web ページで1月中旬からご案内します。多くのみなさまの受講をお待ちします。

(事務局・真部)

広報・PR実務講座 2020

「PRプランナー1次試験対策講座」を開講 ～第29回試験に向け1月13日～3月19日でオンライン配信～

教育委員会

日本パブリックリレーションズ協会は、「第29回（2021年度前期）PRプランナー1次試験」の受験者を主な対象とする「PRプランナー1次試験対策講座（2021年度前期）」を、任意の時間、場所でフレキシブルに学ぶことができるWeb講座として1月13日から開講します。

PRプランナー資格取得の登竜門となる「PRプランナー1次試験」は、広報・PRに関する基本的な知識を50問の問題で検定する試験であり、合格のためには広報・PRにかかわる広範な知識の習得と試験分野についての系統的な理解が必要となります。

本講座では、広報・PRに豊富な実務経験を有するとともに専門的な知識を備え、自らもPRプランナー資格を取得したベテラン講師が、公式テキスト「広報・PR概説」をもとに、試験分野を平易に解説します。これにより受講者は合格に必要な知識を効率的に習得できます。また、「PRプランナー1次試験」の概要や試験のポイントについても理解を深めることができ、効果的な受験対策を行うことが可能となります。

今年度は、会場における開催を行わず、インターネットを利用したWeb講座として開講します。遠隔地に居住されたり、業務が多忙で会場に通うことが難しかったみなさまも、スマホやタブレット、パソコンを利用し時と場所を選ばずご自身の都合にあわせて受講することができます。また、開講期間中は、繰り返し何度も履修することが可能ため、より試験分野の理解を深めることが可能です。

PRプランナー資格の取得をめざす多くの皆さまの受講をお待ちいたします。

■「PRプランナー1次試験対策講座」の概要

講座内容	講師	受講料(税込)	受講締切
<ul style="list-style-type: none"> ▪ 広報・PRの基本 ▪ 企業経営と広報・PR ▪ 広報・PR活動のマネジメント ▪ コミュニケーションの基礎理論 ▪ マーケティングの基礎理論 ▪ マーケティングと広報・PR ▪ ブランドの基礎理論 	株式会社井之上パブリックリレーションズ 執行役員 アカウントサービス本部 コンサルティング2部 部長 横田和明氏	一般： 23,760円 学生： 19,800円	3月5日 (金)まで
<ul style="list-style-type: none"> ▪ メディアリレーションズ ▪ IR(インベスターリレーションズ) ▪ インターナル・コミュニケーション ▪ CSR(企業の社会的責任) ▪ 危機管理広報 ▪ グローバル広報 ▪ 行政・団体等の広報・PR 	株式会社エイレックス 危機管理広報コンサルティング 部長 シニアトレーナー 畑山 純氏	協会会員 社員： 19,800円	

(事務局・真部)

正会員・個人会員限定

第210回定例研究会

朝日新聞 経済報道の今とこれから

～デジタル化そしてコロナ禍で経済報道はどう変わったのか？～

講 師：朝日新聞社
東京経済部長
多賀谷克彦氏

第210回定例研究会（12月度）は、12月16日（水）、オンラインで開催しました。講師は朝日新聞社 東京経済部長 多賀谷克彦氏。テーマは「朝日新聞 経済報道の今とこれから～デジタル化そしてコロナ禍で経済報道はどう変わったのか？～」でした。

PR SJ in Media

● 1月1日（金） 『月刊広報会議』（宣伝会議）2月号

『月刊広報会議』2月号における当協会の連載コラムで、当協会が11月13日にオンライン開催した「PR SJ 40周年記念フォーラム」の概要が記事掲載されました。

コラムでは、本イベントの開催趣旨をはじめ、協会の功労者12名の発表、「コロナ禍とパブリックリレーションズ」調査の結果報告、「2020年度PR SJ宣言」の発表、さらにその後実施された理事4名によるトークセッションについて、それぞれのポイントとあわせ紹介されています。

● 12月3日（木） 『CM通信』（ユニ通信社）

「CM通信」No. 5471において、「PRアワードグランプリ2020」における受賞エントリーについて、3ページにわたり記事掲載されました。

記事では、グランプリをダイキン工業と井之上パブリックリレーションズの2社が受賞したことをはじめ、シルバーを受賞した7エントリー、ブロンズを受賞した7エントリー、さらに奨励賞1エントリーについて、テーマ、エントリー会社、応募カテゴリーとともに紹介されています。

● 12月20日（日） 『企業と広告』（チャンネル）1月号

「企業と広告」1月号のコーナー「協会ニュース」において、「PRアワードグランプリ2020」のグランプリを2エントリーが受賞したことが報じられました。記事では、ダイキン工業と井之上パブリックリレーションズの2社が受賞したことにあわせ、2件が同時に受賞するのは2012年度以来、2度目になったことに触れられています。

● 12月20日（日） 『企業と広告』（チャンネル）1月号

「企業と広告」1月号において、当協会が先に実施した「コロナ禍とパブリックリレーションズに関する意識と実態」調査結果が、「社内リレーションの重要度が増大～社会における共感醸成を重視」との記事で紹介されました。

記事中では、コロナ禍によってリレーション活動が制約を受ける中で、取材対応の変化やデジタルツールの活用が進むとともに、社会における共感醸成の重要性が増していることが明らかになったとしています。

● 12月10日（木） 『月刊広報』（日本広報協会）12月号

「月刊広報」12月号において、当協会が先に実施した調査「コロナ禍とパブリックリレーションズに関する意識と実態」に関する記事が掲載されました。

記事では、本調査の実施時期、方法、内容、回答人数をはじめとして、広報・PR担当者の役割の変化、広報・PRのあり方に関する調査結果のポイントが紹介されています。また、当協会の概要、調査結果のダウンロードによる入手法についても、あわせて触れられました。

[記事協力：株式会社内外切抜通信社]

編集担当より

本誌の内容に関するご意見・ご希望をお寄せください。
中身の濃い会員誌に育てていきたいとおもいますので、
よろしくお願い致します。

広報員会

Eメール mail@prsj.or.jp

F A X 03-5413-2147

※ 禁転載